

や!みち

…仮設支援情報…



第54号 発行日 98.8.23

被災地NGO協働センター

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町7-2-6

TEL: 078-685-0068 / FAX: 078-685-0071

E-mail: SHB00846@niftyserve.ne.jp

口座番号: 01180-6-685556 (郵便振替)

甲子園の球児の歓声が去り、辻々の地蔵盆の華やぎが去ると、夏の終わりの近いことを実感します。
以前なら「宿題やってない～」とそろそろあせり始める今日この頃、残暑お見舞い申し上げます。



まけないぞう～ありがとうキャラバン が出発します！

当センターのスタッフが、「まけないぞう」事業の促進のために「一本のタオル運動」を呼びかけながら、今年1月北海道を出発し、60日かけて横浜まで歩きました。冬の北海道・東北の徒步キャラバンだつたために、みなさまには多大なご心配をお掛けしました。また道中では、北海道のみなさまはじめ、本当に多くのみなさまに助けられ、励まされ、支援を受けました。

私たちはこの3年間、全国の人たちと顔の見える関係を築き、そのことによって多くのことを学ばせて頂きました。震災で多くの命をなくしましたが、多くの財産も頂きました。それは、人の愛、思いやる心、支え合う行動です。

☆ ☆ ☆

1995年1月17日、未曾有の阪神・淡路大震災を受けて以来、義援金や物資とたくさんの支援を受けたにもかかわらず、3年経つてまた厚かましくも一本のタオルの提供を求めて、お願いしてまいりました。みなさまと同じサポーターとして、今度は今までのご支援、ご協力に対して、不充分ではあります、一度お礼に参らなければと思い、このような「まけないぞう～ありがとうキャラバン」を企画いたしました。結局またみなさまにご迷惑をかけることになることを承知しながら、図のようなスケジュールでの実施を予定しています。

☆ ☆ ☆

「まけないぞう」事業は「私たちは大きなことはできません。ただ小さな愛をもってやることはできます」をモットーに、この間、展開してまいりました。おかげさまで、この1年間に寄せていただいたタオルは約50,000本、製作されたぞうさんタオルは40,000頭を超えるました。そして何よりも製作者である被災者は、一針一針、精魂込めてつくりながら「苦しいけれど、私もマケナイゾ～」と、手に持つぞうさんに語りながら、日々を過ごしています。また「まけないぞう」を買って下さった人から「逆に元気をもらいました」というお便りを頂き、「震災後、ずっと助けてもらつてばかりだつたけれど、やつとこうして人の助けに、社会の役に少しでも立つたのね」と涙ながらに話されます。また、ぞうさんは手作りですから一頭一頭少しづつ表情が違い、自分の分身のように可愛がっておられ、出荷するときには「この子はどこに嫁に行くのかなあ」と語りかけている方もいます。

☆ ☆ ☆

本当にみなさまのおかげで、勇気と元気を頂きました。

今までのご支援とご協力に対して、甚だ不十分ではあります、お礼に伺いたいと思います。道行く先々でお会いできたら、ぜひお気軽に声をかけて下さい。

私たちは大きなことはできません。

ただ小さな愛をもってやることはできます。(マザー・テレサの言葉より)



…仮設支援情報…

村井くんの『裁判傍聴記』

今年1月21日、尼崎市で、仮設住民の男性が父親を殺害し、本人も手首を切つて自殺をはかる痛ましい事件がありました。3月20日より神戸地方裁判所尼崎支部でこの事件の裁判が始まり、7月31日に第5回公判が行われました。

問われるべきは 国・県ではないのか！！

毎回このページで報告しているこの裁判も、7/31の公判で5回目になります。この日は弁護側の証人として、中村大蔵施設長(尼崎市特別養護老人ホーム「園田苑」)が証人台に立ち、「今回の事件は震災がなければ起こらなかっただけではないか」と指摘されました。その他「親孝行の子どもが熱心に介護を続けた場合、親と子が自己を客観的に見られなくなる『親子一体化現象』が表れる」「震災のため30年以上も住み慣れた土地を離れた父親は自己のアイデンティティを一挙に喪失した。その父親を施設に入所させることを被告に期待できる状態ではなかった」と、施設での実践を持つ人ならではの証言を見事にされました。中村大蔵施設長は「24時間ケア付仮設住宅」の運営も預かっており、実際に多くの仮設住宅での事例を持っておられます。

3年間という長期にわたっての「仮住まい」は、余りにも過酷です。仮設住宅に放置したとしか言いうのない実態を見ると、問われるのは国であり、兵庫県ではないのかと言いたくなります。いま被災地では孤独死・自殺死が急増しており、その数は平常時と比べて明らかに高くなっています。震災がなければこれほどまでに多くの悲劇はやはり起こらなかっただろうと、悔しい思いをしているのは私だけではないでしょう。

次回第6回公判は9月18日尼崎地裁で開かれます。次回は弁護側、検察側各々の論告になり、いわゆる結審です。弁護人の話では早ければ今秋にも判決となる運びとのことです。

(被災地NGO協働センター 村井 雅清)

‘98フェリシモ

もっとずっときっと プロジェクト

フェリシモ「もっと、ずっと、きっと」プロジェクトは、被災地NGO協働センター参加団体の共同プロジェクトとしてスタートしました。これは参加団体が協力して推し進めるもので、横のつながりを広め、各団体の活動をより効果的にし、また変化する被災地の状況に対応していくことにより、仮設住宅などにおける被災者支援を行っています。

フェリシモ「もっと、ずっと、きっとプロジェクト」事例検討会

…より有効な被災者支援と、そして活動の転換期をみつめて…

当プロジェクトに参加している各団体が、それぞれの現場で直面するさまざまな問題点について、全体で考えてみようという試みです。

最適な被災者支援を行うこと、各団体の活動の整理と今後の方針を見出すきっかけにすることを目的に、今年8月から毎月第1月曜日に実施しています。

第1回めは、須磨区で活動されているゆいま～る神戸さんから、ある一人の被災者との関わりを例に「ボランティアとしてどこまで関わるべきか」という課題を含む事例が投げかけられました。

以後、テーマによっては、専門家のコメントーターを交えて、行政との関わり、まちづくりほか、あらゆる角度から被災地の自立支援を検討していく予定です。

(被災地NGO協働センター・フェリシモプロジェクト担当 大川 順子)

…仮設支援情報…

《仮設は今...》

西宮市編

「恒久的に行こう！」

仮設住宅は運命共同体であった。恒久住宅への転居の見通しがはつきりしないあいだは特にそうだった。だから、困難な環境のもとで運命共同体の結束を固め、日常生活をよりよいものにしていく活動が……つまり内部のコミュニケーション活動が何よりも大切だった。その際、仮設をとりまく周囲のコミュニティと良好な関係を築いて、そこから仮設支援のエネルギーを引き出すことが重要であるとわかつても、内部問題に追われてそこまで手が回らないというケースがかなりあったとおもう。仮設が仮の住まいである限りではそれもやむを得なかつただろう。したがって支援者の活動も仮設内部のコーディネートに第1の力点が置かれることが多かった。

しかし、恒久住宅、特に公的な復興住宅においては事情はずいぶんと異なったものになっている。建物の構造上の問題もあって、私の知る限りでは仮設の時より共同体意識が形成しにくくなっている。住民の中からコーディネーター役をやってくる人も仮設に比べて相対的に少ない。他方、正確な調査はまだないが住民にしめる高齢者の比率は復興住宅のほうが仮設よりも高いだろう。外から復興住宅に対して住民のみによる「自治活動」を求めるのはムリがあろうというものである。

このような理由と、復興住宅は「恒久的」なものであるということのために、復興住宅には「恒久的」なサポートが必要であると思われる。もちろんそのためには復興住宅をとりまく地域住民の主体的参加が欠かせないが、では「外から」の支援が必要ないのかといえば決してそうではあるまい。被災マンションの建て替えなどの場合に住民だけでは利害調整が難しいことが多いが、そんなときに外部のコンサルタントが果たす役割は大きい。それと同じことで、地域の人と人をつなぐネットワーカーとしてボランティアも「他人であること」を積極的に活かせる活動の場がまだまだあるのである。

地震そのものは自然現象としても、復興住宅に多くの高齢者や障害者が集中して住むようになつたのは明らかに「人為」である。天災と人災とをあわせて震災と呼ぶのならまだまつ震災は継続している。誰が見てもわかる仮設という震災の傷跡がなくなつても支援者の仕事がなくなつたり、「見えにくく」なつたりするわけではないのである。

(都市生活地域復興センター 池田啓一)

お知らせ

INFORMATION

「ガツツくん」のTシャツのデザインでおなじみのWAKKUN(涌嶋克己)の初めての画集が7月末に発売されました。WAKKUNの自薦による心あたたまる作品群、やさしいまなざしとほのぼのとした感性が、伝わってきます。

「友だちがいてよかつた」(遊タイム出版発行)

WAKKUN自薦の作品56点による B4変形版64ページ・オールカラー 著者涌嶋克己・定価2625円
問合先被災地NGO協働センター TEL:078-685-0068 FAX:078-685-0071

須磨区の「ゆいまーる神戸」では、9月15日の「敬老の日」に、お年寄り向けにお赤飯の準備をしています。そこで、お赤飯を炊くための「もち米」を募集しています。問合せ・送付は被災地NGO協働センターまで。

問合・送付先被災地NGO協働センター:〒650-0044 神戸市中央区東川崎町7-26 TEL 078-685-0068 (村井・福田)

....仮設支援情報....

パプアニューギニア 地震津波



被災地の小学校再建のため新たに募金を募ります！！

7月17日、パプアニューギニア北東部の海岸地帯を襲った津波の大災害に対して、7月20日に神戸周辺のNGOなどによる緊急救援実行委員会を立ち上げ、翌日より新聞・テレビ等を通して支援募金を呼びかけました。現地情報が日々深刻度を増して来たため、7月27日草地委員長が急拠パプアニューギニアに入り、現地の信頼できるNGO=パプアニューギニア・キリスト教協議会(PNGCC)の計らいで被災現場をヘリコプターで視察してきました。

8月3日神戸YMCAで現地視察報告会が開かれ、今後も継続した募金活動を呼びかけることが決定しました。また以下の2点を今後の支援内容としていくことを確認しました。

1. 津波災害で流された3校の小学校の再建費用に当てる。
2. 医療センターで不足する医薬品の購入費に一部当てる。

従って皆さまから寄せられた支援金は現地で信頼の出来るPNGCCに送金し、当面「特別基金」として預かっていただき、上記の内容に使っていただくことになっております。引き続き募金活動にご協力下さいますよう、よろしくお願い致します。



「あの時のつらさ」思い出して…

パプアニューギニア支援を

被災地NGO代表・草地さん視察報告

草地さんは、七月二十七日同国入りし、約二週間滞在した。その間、被災地アイバの総合救援本部の許可を得て軍のヘリコプターに同乗、流れ出した村などを空から視察した。立入り禁止区域では、災害から約半月たった今も家屋が押し流されたままで、こうなどの汚染を防ぐため、車や警察が海面に浮いた遺体を沈めていた。一方安全地域に避難した住民はビニールシートで覆つただけの避難所で生活。病院では、負傷者がようやく感情を取り戻しつつあるのか、家族らの死に涙を流す姿がみられたという。

草地さんは食糧や水などをほぼ支給され、緊急事態は脅しある。今後も支援は、避難所生活や再定住活動に向けべきだ。同委員会は津波で消滅した三小学校の再建を支援する方針。一校の再建には計三千万円を目指す。これは、震災元NGO救援連絡会議の振込先は郵便振替と明記する。

(8月4日 神戸新聞朝刊)

募金の振込先：

郵便振替 口座番号 00970-7-39728

加入者名 阪神大震災地元NGO救援連絡会議

* 通信欄に「パプア地震津波支援」とお書き下さい。

パプアニューギニア地震津波・緊急救援実行委員会

神戸国際協力センター・神戸国際交流協会・神戸YMCA・PHD協会・コーポこうべ・阪神大震災地元NGO救援連絡会議・被災地NGO協働センター・震災がつなぐ全国ネットワーク・NGO外国人救援ネット・兵庫県国際交流協会・神戸YWCA・東京YMCA・神戸華僑総会・災害救援研究所・くるりん自然災害基金運営委員会・日本災害救援ボランティアネットワーク・コーピッシュ(順不同・8.15現在)

事務局：〒650-0044 神戸市中央区東川崎町7-2-6 被災地NGO協働センター気付

阪神大震災地元NGO救援連絡会議 (村井・細川)

TEL:078-685-0068 FAX:078-685-0071

....仮設支援情報....

なお1万2千戸

公営完成や当選 自宅再建を待ち

阪神大震災の被災者用に建設された仮設住宅は、兵庫県内を中心に48,300戸。全入居者が退去したところから解体が始まっている。これまでに26自治体のうち11市町村で撤去が終わった。

8月1日現在、入居者のいる仮設住宅は、大阪府内を含め15の自治体に12,269戸ある。当初の約1/4だ。

4戸から400戸の仮設で1つの団地を作っているが、全体の6割の仮設住宅が建設された神戸市では、これまでに288団地中2団地が「自然解消」し、企業の所有地のため返還期限が来た4団地が「早期解消」した。この秋にかけてさらに3団地が用地都合で消える予定だ。市は「以後はさみだれ的閉鎖はせず、来年3月末をめどに恒久住宅への移転を進めたい」という。

神戸市の7月末現在の仮設入居者は15,766人。入居率は30.9%と周辺より高い。仮設に残っている理由は、「当選した公営住宅が未完成」5,700戸▽「公営が当たらない」2,200戸▽「民間賃貸あるいは自宅の再建待ち」1,700戸など。65歳以上が31.6%を占め、その過半数が単身世帯だ。

神戸市生活再建本部の高橋正幸・自立支援課長は「仮設のいまの課題は過疎化。入居者の負担になると困るので、行政側から仮設の集約や統廃合は呼びかけない。しかし、コミュニティの崩壊、治安の悪化、残された人の焦燥感をどうフォローしていくか難しい問題」と話している。

(8月11日 朝日新聞朝刊)

仮設住宅入居状況
(8月1日現在・兵庫県調べ)

▽神戸市	9,533世帯
▽西宮市	1,537世帯
▽尼崎市	490世帯
▽加古川市	200世帯
▽宝塚市	146世帯
▽姫路市	104世帯
▽高砂市	79世帯
▽大阪府	79世帯
▽津名郡一宮町	32世帯
▽明石市	25世帯
▽津名郡北淡町	24世帯
▽三木市	8世帯
▽三田市	7世帯
▽芦屋市	4世帯
▽加古郡播磨町	1世帯
▼合計	12,269世帯

ご入会ありがとうございました

(敬称略・'98年7月25日~8月20日)

【個人会員】木村 篤子,羽賀 比登志,三井 さよ,吉沢 郁生

【賛助個人会員】宇佐美 昌伸,西山 淳子

【自由選択会員】斉藤 庸子,吉川 貴子,吉田 初江

新規会員募集 & 繼続会費納入のお願い

★団体会員 年会費￥10,000×1口以上

★個人会員 年会費 ￥3,000×1口以上

★団体賛助会員 年会費￥10,000×1口以上

★個人賛助会員 年会費 ￥3,000×1口以上

★自由選択会員 任意の額

詳しくはお気軽にセンターまでお問合せください。

イベント情報

EVENT information

「被災地支援&障害者支援」
チャリティ美術展inながた

多数の芸術家有志の方々が、「作品販売売上金で被災者支援を」と展開している全国巡回チャリティ美術展が、「はあとギャラリー」オープニングに伴い神戸に戻ってきました。期間中、展示作品は隨時交換していますが、ご興味のある作品は提示しますのでお申し付け下さい。コーヒータイムと共にお選びいただけます。

日時：1998年9月1日(火)～30日(水)
10:00～18:00 ※月曜日休み

場所：hardtwig'sアートギャラリー
神戸市長田区西代通3-10-16

主催・問い合わせ：
コリアボランティア協会
TEL/FAX：06-717-7301

振替口座：00920-6-29408

(カンパ協力をお願いします)

「あなたにできること」
災害ボランティアコーディネーター養成講座

あの阪神・淡路大震災から3年。発生直後、現地にとにかく駆けつけた人、地元から物資を山のように送った人、そして何もできずじまいだった人…さまざまでした。あのとき自分がやつたことは? またやれたことは…? 自分のできることをもう一度見直し、そして発見して見ませんか? 「みんな」でつくる講座5回シリーズ、開催します。

日時：
9月20日(日) 避難所編
10月3日(土)～4日(日) 野外実践編
10月24日(土) 救援物資編
11月14日(土) 「自分」向上編
12月6日(日) 総括まとめ編

募集定員：30名(先約順)
料金：2,000円(10.3～4のみ4,000円)
主催・問い合わせ：
震災から学ぶボランティアネットの会
TEL/FAX：(名古屋)052-413-6304

センターの動き

1月末～8月

7/28(火) フェリモ移送プロジェクトセミナー

7/30(木) センター会議

7/31(金) 尼崎裁判傍聴

成蹊大田中ゼミ研修受入(～8/1)

8/1(土)～2(日) みんなでハッピーキャンプ 参加

8/3(月) PNG津波救援現地報告会

フェリモプロジェクト事例検討会(三宮)

成蹊大田中ゼミ研修受入(～8/4)

8/5(水) センター会議

8/8(土)～9(日)

被災地NGO協働センタースタッフ合宿

今治タリフニア/どう販売(愛媛県)

8/11(火) 市民活動広場

8/13(木) センター会議

8/21(金) センター会議

8/22(土)

～8/23(日) コリアボランティア協会キャンプ 参加

8/25(火) PNG津波救援実行委員会

市民活動広場・NPO法律学習会

8/27(木)

震災がつなぐ全国ネットワーク幹事会(東京)

ぞう 通信。

発行所：神戸市中央区東川崎町7-2-6 ☎650-0044
被災地NGO協働センター

第7号 1998.8.23



まけないぞう・ありがとうキャラバン
9月末にスタートします!!

阪神・淡路大震災から3年半、この間の全国のみなさまからの支援に対するお礼の意味を込めて、「まけないぞう・ありがとうキャラバン」を企画しました。9月末に北海道をスタートし、2ヶ月間、東北・関東地方をトラックで駆け回ります。お近くに立ち寄った際はよろしくお願ひします。



住吉物語 Part2

ある人は1時間に1つ、ある人は1日に2つ、それぞれのペースで作っている。でも不思議なことに誰一人として、お金のことを言う人はいない。

自分の手で作ったぞうを眺めながら、「本当にかわいくできたね」「すごくかわいいらしいな」「手放したくないな」わきから「でも私のもこんなかわいいよ♡」と、一つ一つ思いを込めながら作っています。

こんな仮設に住んどって、しんどいけどまけないぞう、と自分に言い聞かせながら……

もしどこかへ引っ越ししても来てくれる。まけないぞうはこれからも続くのかな、と心配そうに……

まけないぞうが届いた人から「とても勇

♥おかげさまで第7号！！♥

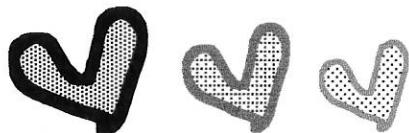


「まけないぞう」「一本のタオル運動」を始め、一年が経った7月「まけないぞう」が3万頭を達成しました。これも全国の支援者の皆さんのおかげだと深く感謝致します。本当にありがとうございます。この運動を通して温かな人の輪・愛の輪が拓がり、「支え合い」の社会を育んで行きたいと思っています。

応援メッセージ

残暑お見舞い申し上げます。始めてお便り致します。ボランティアの皆々様が頑張ってタオルの象を作つておられるのをテレビで拝見致し感動いたしました。私は痴呆の母を見ておりますのでお手伝いをと思う気持だけで何も出来ませんが、私自身精神的にまいってしまう時があります。そんな気分の時に、かわいい、象のテレビを見まして、なんとか救われた気持ちが致しました。私も頑張るゾーと、元気が出ました。私も近所のお年寄りや、入院中の方に元気になつていただこうと思いました。(後略)

(京都府在住・廿性)



気づかれています」というお手紙が来ました、というと、この子たちも人の役に立っているのね、と微笑んでいました。

作り手にとっては生きがい、やりがいにつながっているのかも知れません。

この子たちがお嫁にいった先がどんなところか、かわいがられているのか、とても気になる様子です。

誰しも人の役に立ちたい、社会に認められたいと思っているのではないでしょか。被災者の人も今まで支えてもらつたお礼をしたいと思っています。そこでまけないぞうを通して全国のみなさんに恩返ししているような気がします。心のキヤッキーボールが、タオルを送ってくれる人、まけないぞうを作る人と買ってくれる人の中で生まれています。